

原 著

広汎性発達障害児をもつ母親の育児ストレスと 父親の母親に対するサポート

岡野維新*1 武井祐子*2 寺崎正治*2

要 約

本研究は、広汎性発達障害児（以下PDD児）をもつ母親が、様々な育児ストレスの下で、父親（夫）から求める理想のサポート内容、および実際に受けているサポート内容と、父親（夫）が母親に対して行なうことを理想とするサポート内容、および実際に行なっているサポート内容を明らかにすることを目的とした。

学童期のPDD児をもつ夫婦40組を対象に、質問紙調査を行った。母親に対しては、母親の育児ストレスが何かについて調べた。さらに母親が育児ストレスの下で父親（夫）から求める理想のサポート内容と実際のサポート内容を自由記述で回答を求めた。父親に対しては、父親が推測する母親のストレスの下で、母親に対して行うことを理想とするサポート内容と実際のサポート内容を自由記述で回答を求めた。

母親は、父親（夫）に母親へのサポートだけではなく、子どもへのサポートも求めている。父親（夫）は母親へのサポートが必要だと考えていたが、子どもへのサポートが必要であるとしていた事例は少なかった。全体を通して、サポート内容が一致していた夫婦は30%であり、多くの夫婦においては不一致がみられることが明らかとなった。

1. 序論

現在、障害のある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援することが重要であるとされている¹⁾。その障害児を最も身近で支えているのは家族である。

家族は障害児支援の重要な担い手である一方で、生活の中で様々な心理的困難や、身体的負担を抱えている。障害児をもつ家族のストレスは健常児を育てる家族に比べて高い²⁾。また田中³⁾は、障害児をもつということは、家族に精神的に大きな打撃を与え、特に母親は、心労に加えて身体的な過労状態が慢性化していると指摘している。新見・植村⁴⁾は障害児をもつ母親の育児ストレスは健常児をもつ母親よりも高いことを示している。

桑田⁵⁾は広汎性発達障害児（以下PDD児）をもつ母親の育児ストレスは他の障害児をもつ母親と比較して高いことを指摘している。また、PDD児をも

つ母親は健常児をもつ母親と比較して抑うつ傾向も高いと指摘されている⁶⁾。このことから、PDD児をもつ母親の育児ストレスの軽減をはかる必要があると考えられる。

障害のある子どもをもつ母親の精神的健康や養育態度に最も影響するのは、配偶者（夫）からのソーシャルサポートであると多くの研究で指摘されている。特に、育児における、夫婦間のサポートの中で、夫からの温かい言葉かけや励ましといった情緒的サポートが有効であるということが多くの研究で指摘されている⁷⁾。PDD児をもつ母親においても、夫からの情緒的サポートが他のサポートよりも有効であるとされている。森口⁸⁾のPDD児をもつ母親のストレス研究によると、夫からのサポートを多く受けている母親はストレスが低く、特に情緒的なサポートが重要であることが指摘されている。このように、母親にとっては、夫からのソーシャルサポー

*1 川崎医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 臨床心理学専攻 *2 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 臨床心理学科
(連絡先) 岡野維新 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学
E-Mail : w5211011@yahoo.co.jp

ト、特に情緒的なサポートの存在が母親の育児ストレスを低下させると考えられる。

しかし、夫からのどのような情緒的サポートが母親の育児ストレスを低下させるのかという、具体的な内容を明らかにした研究は少ない。さらに、サポートの送り手である夫のサポート意識や具体的なサポート内容は必ずしも明らかになっていない。

また、尾見⁹⁾はサポートの受け手がサポートを受けていないと思っても、送り手はサポートを行なったと思っている場合があり、二者間のサポートの認識に不一致が生じる可能性を指摘している。夫婦間においてもこのような不一致が考えられる。母親の育児ストレスが緩和されるためには、実際に母親の望むサポートが父親から行われ、なおかつ、母親が父親からのサポートを自分の望むサポートとして知覚していなければならない。サポートの不一致は、父親（夫）の意に反し、母親が求めているサポートではないことになり、母親の育児ストレスの低下には寄与しないと考えられる。夫婦間でのサポート内容の一致・不一致の実態を明らかにし、どのようなサポート内容で不一致が生じているのかを明らかにすることは具体的な育児支援に役立つと考えられる。

そこで、本研究では、PDD児をもつ母親が、様々な育児ストレスにおいて、父親（夫）から求める理想のサポート内容、および実際に受けているサポート内容を明らかにする。一方、父親（夫）が母親に対して行なうことを理想とするサポート内容、および実際に行なっているサポート内容を明らかにする。

さらに、夫婦間で、父親（夫）が行なっているサポートが母親の望むサポートと一致しているのかを明らかにする。上記の目的に基づき、各ストレス場面において、（1）母親が父親から求める理想のサポート内容と、父親が母親に実際に行っているサポート内容の比較、（2）母親が実際に父親から受けているサポート内容と、父親（夫）が母親に実際に行っているサポート内容の比較を行ない、それぞれの一致を算出し、さらに（1）（2）ともに一致している事例の一致率を算出する。以上のことを調査し、夫からのサポートの在り方を検討することを目的とする。

2. 方法

2.1 対象者・調査時期

対象者はK市にある児童デイサービスを利用している学童期のPDD児をもつ夫婦40組であった。平成22年7月下旬から8月中旬に質問紙を配布し、8月

中旬から9月中旬にかけて質問紙を回収した。回収率は、父親用の質問紙は40%（16人）、母親用の質問紙は56%（23人）であった。さらに、父親用質問紙と母親用質問紙ともに回収できたのは40%（16組）であった。

2.2 手続き

質問紙は父親用、母親用を別々の封筒に入れ、著者が直接手渡しで配付し、直接受け取った。

2.3 調査内容

2.3.1 質問紙の構成と内容

父親用と母親用の2種類の質問紙を作成した。両質問紙に共通して、PDD児をもつ母親の育児ストレスに関する湯沢¹⁰⁾の項目を用いた。子どもの特性により、周りのともだちとトラブルになることを表す「他者とのトラブル」、子どもの育て方、関わり方が分からなくなることを表す「子育ての不安」、子どもの特性を周囲から理解されず、注意などをされることを表す「周囲の無理解」、常に子どもから目が離せず自分の時間がとれないと感じることを表す「自分の時間が無い」、子どもの特性により身体的な負担を感じることを表す「身体的な負担」、「その他」の6種類のストレスであった。母親用質問紙は、これらのストレスから、育児をする上で自身がストレスを感じると思うストレスを3つ選択するよう求めた。さらに母親用質問紙は、選択したストレス場面において父親（夫）から求めるサポート内容と実際のサポート内容を自由記述で回答を求めた。父親用質問紙は、母親用質問紙で用いた6つのストレスから、母親がストレスを感じていると推測するストレスを3つ選択するよう求めた。さらに父親用質問紙は、6つのストレスから日常で母親が感じていると父親（夫）が推測するストレス場面において、母親に対して行うことを理想とするサポート内容と実際のサポート内容を自由記述で回答を求めた。

3. 結果

母親が育児をする上でのストレスを明らかにするために、6つのストレスのおのおのについて、母親が選択した比率を示した（図1）。また、6つのストレスのおのおのについて、父親が選択した母親が感じていると推測するストレスの比率を示した（図2）。母親の育児におけるストレスは、「子育ての不安」が23名中19名で83%であり、最も多かった。父親（夫）が推測する母親のストレスは、「子育ての不安」が16名中12名で75%であり、最も多かった。母親と父親が最も多く回答していたストレスは一致していた。この

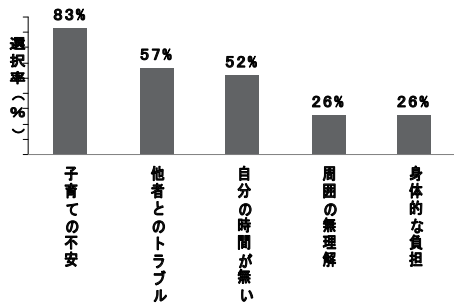


図1 母親が選択した育児ストレスの選択率

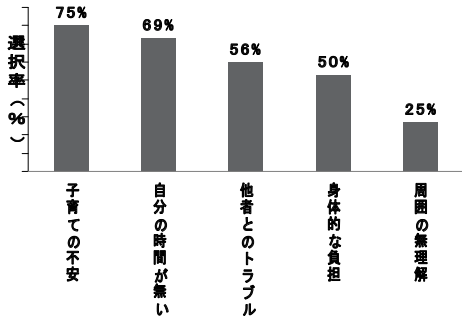


図2 父親が選択した父親が推測した母親の育児ストレスの選択率

ことから、子どもとの関わり方や育て方が分からないといったストレスを、多くの母親が感じており、父親も同様に、子どもとの関わり方や育て方が分からないといったストレスを母親が感じているであろうと推測していることが明らかになった。

母親及び父親(夫)から得られた自由記述に関して、記述された内容を分類するために、同じ内容が記述された人数を集計した。記述された内容の具体例を表1、表2に示した。さらに、記述された内容から、「母親に働きかけるサポート」「子どもに働きかけるサポート」「環境に働きかけるサポート」の3つに分類した。なお、分類については著者のみで行なった。母親と父親(夫)が最も多く回答してい

表1 「子育ての不安」において母親が父親(夫)に求める理想のサポート内容と実際に受けているサポート内容の記述例

母親が記述したサポート内容の例	
理想	実際
・冷静に子どもの話を聞いて寄り添ってやって欲しい。その上で、自分なりに子どもの問題行動の原因や理由を考えて、私と子どものことについてしっかり話し合っしてほしい。	・子どもの問題行動で私が困った時、私の愚痴を聞いてくれる。(聞くだけ)。
・子どもの話をきいたり、遊んでくれたりしてほしい。	・一方的に私が話すのを聞いてくれるのみ。
	・とりあえず話だけは聞いてくれる。

表2 「子育ての不安」において父親(夫)が母親に行うことを理想とするサポート内容と実際に行っているサポート内容の記述例

父親が記述したサポート内容の例	
理想	実際
・奥さんだけの問題ではなく、自分も一緒に考え、解決していければいいと思う。	・夫婦での話し合い。メンタル面でのサポート。
・妻の意見を聞く。会話をし、自分の意見を伝える。	・一緒に解決方法を考える。
・相談にのり、話を聞く。	・妻と一緒に考えて、前向きな答えを出していく。
・妻の話をよく聴くこと。子育てに積極的に参加すること。	・時々だが、話を聞き、意見の交換をしている。

たストレスは「子育ての不安」であった。このことから「子育ての不安」は両者に共通して最も重要なストレスであると考え、「子育ての不安」のみの自由記述の結果を分析した。

表3は「子育ての不安」というストレスに対して、母親が父親(夫)に求める理想のサポートを示したものである。これによると、「夫婦で話し合う」(8名)「母親の話を聞く」(3名)といった『母親自身に働きかけるサポート』が最も多かった。次いで「子どもの話を聞く」(4名)「子どもの気持ちを理解する」(2名)といった『子どもに働きかけるサポート』であった。『環境に働きかけるサポート』について記述した事例はなかった。表4は「子育ての不安」というストレスに対して、父親が母親に行うことを理想とするサポートを示したものである。これによると、「夫婦で話し合う」(4名)「母親の話を聞く」(3名)「母親のメンタル面のサポート」(3名)といった『母親自身に働きかけるサポート』が最も多かった。『子どもに働きかけるサポート』は2名で少なかった。『環境に働きかけるサポート』をあげた事例はなかつ

表3 「子育ての不安」において母親が父親(夫)に求める理想のサポート内容

母親が父親に求める理想のサポート
母親自身に働きかけるサポート
夫婦で話し合う(8名)
母親の話を聞く(3名)
育児に自信が持てるように認める(1名)
母親任せにしない(1名)
子どもに働きかけるサポート
子どもの話を聞く(4名)
子どもの気持ちを理解する(2名)
子どもを誉める(事例11 1名)
子どもの特性や療育を真剣に考える(1名)
子どもと遊ぶ(1名)
環境に働きかけるサポート
事例なし

表4 「子育ての不安」において父親（夫）が母親に行なうことを理想とするサポート内容

父親が母親に行うことを理想とするサポート
母親自身に働きかけるサポート
夫婦で話し合う(4名)
母親の話を聞く(3名)
母親のメンタル面のサポート(3名)
母親任せにしない(1名)
母親にアドバイスをする(1名)
子どもに働きかけるサポート
子どもに近づきすぎず離れすぎない(1名)
育児に積極的に参加する(1名)
環境に働きかけるサポート
事例なし

た。つまり、母親が父親（夫）に求める理想のサポートおよび、父親（夫）が母親に行なうことを理想とするサポートで最も多くあげていた『母親自身に働きかけるサポート』は両者で一致していたが、『子どもに働きかけるサポート』では、一致していなかった。

表5は「子育ての不安」というストレスに対して、母親が父親（夫）から実際に受けているサポートを示したものである。これによると、「母親の話を聞く」（7名）といった『母親自身に働きかけるサポート』が最も多かった。『子どもに働きかけるサポート』は3名であった。『環境に働きかけるサポート』は1名であった。表6は「子育ての不安」というストレスに対して、父親（夫）が母親に実際に行っているサポートを示したものである。これによると、「夫婦で話し合う」（6名）「母親の話を聞く」（4名）といった『母親自身に働きかけるサポート』が最も多かった。『子どもに働きかけるサポート』をあげた事例はなかった。

『環境に働きかけるサポート』は1名であった。このように、母親が父親（夫）から受けているサポートおよび、父親（夫）が母親に実際に行っているサポートで最も多くあげていた『母親に働きかけるサポート』は一致していたが、『子どもに働きかけるサポート』では、一致していなかった。

また、『母親自身に働きかけるサポート』で母親は理想のサポートに「夫婦で話し合う」（8名）という内容を多くあげていたが、実際のサポートでは「夫婦で話し合う」は1名であり、多くの母親は父親（夫）から「母親の話を聞く」というサポートを受けていた。しかし、父親（夫）は理想においても実際においても「夫婦で話し合う」というサポートを行っていた。

次に、父親（夫）が行なっているサポートが母親の望むサポートと一致しているのかを明らかにするために、母親が父親に求める理想のサポート内容と

表5 「子育ての不安」において母親が父親（夫）から実際に受けているサポート内容

母親が父親に実際に受けているサポート
母親自身に働きかけるサポート
母親の話を聞く(7名)
アドバイスをくれる(2名)
夫婦で話し合う(1名)
子どもに働きかけるサポート
子どもと関わる(2名)
子どもの気持ちに寄りそう(1名)
環境に働きかけるサポート
家事をしてくれる(1名)

表6 「子育ての不安」において父親（夫）が母親に実際に行なっているサポート内容

父親が母親に実際に行なっているサポート
母親自身に働きかけるサポート
夫婦で話し合う(6名)
母親の話を聞く(4名)
母親のメンタル面のサポート(1名)
母親に子どもの様子を聞く(1名)
子どもに働きかけるサポート
事例なし
環境に働きかけるサポート
家事の分担(1名)

父親が母親に実際に行なっているサポート内容の比較、および母親が実際に父親から受けているサポート内容と父親が母親に実際に行なっているサポート内容の比較を行なった。分析対象は、夫婦ともに質問紙に対して回答が得られた16組中、育児ストレスとして「子育ての不安」を選択した10組であった。母親が父親に求める理想のサポート内容と父親が母親に実際に行なっているサポート内容の比較を行なった結果、夫婦間で一致していた事例は、10名中4名であり、一致率は40%であった（表7）。母親が実際に父親から受けているサポート内容と父親が母親に実際に行なっているサポート内容の比較を行なった結果、夫婦間で一致していた事例は、10名中4名であり、一致率は40%であった（表8）。母親が父親に求める理想のサポート内容と父親が母親に行なっているサポート内容が一致しており、なおかつ、母親が実際に父親から受けているサポート内容と父親が母親に行なっているサポート内容が一致していた事例は、10名中3名であり、一致率は30%であった。このことから、母親が望むサポートを父親が実際に行っている夫婦は少なく、不一致が生じている夫婦が多いということがうかがえた。

4. 考察

本研究では、PDD児をもつ母親が、様々な育児ストレスに対して、父親（夫）から求める理想のサポート内容、および実際に受けているサポート

表7 「子育ての不安」において母親が父親に求める理想のサポート内容と父親が母親に行なっているサポート内容の比較

母親(理想)	父親(実際)
母親自身に働きかけるサポート(6名)	母親自身に働きかけるサポート(9名)
子どもに働きかけるサポート(4名)	子どもに働きかけるサポート(事例なし)
環境に働きかけるサポート(事例なし)	環境に働きかけるサポート(1名)

表8 「子育ての不安」において母親が実際に父親から受けているサポート内容と父親が母親に行なっているサポート内容の比較

母親(実際)	父親(実際)
母親自身に働きかけるサポート(5名)	母親自身に働きかけるサポート(9名)
子どもに働きかけるサポート(1名)	子どもに働きかけるサポート(事例なし)
環境に働きかけるサポート(1名)	環境に働きかけるサポート(1名)

内容と、父親(夫)が母親に対して行なうことを理想とするサポート内容、および実際に行なっているサポート内容を明らかにした。さらに、夫婦間で、父親(夫)が行なっているサポートが母親の求めるサポートとどの程度一致しているかを明らかにした。

本研究から、母親の育児におけるストレスは、「子育ての不安」が23名中19名で83%であり、最も多かった。湯沢¹⁰⁾の研究でも、自閉症児を育てる母親の多くが、子どもの育て方や関わり方が分からないといったことでストレスを感じているということを指摘している。このことから、「子育ての不安」というストレスは、PDD児を育てる母親の共通のストレスであるということが考えられる。子どもと最も多くの時間を過ごす母親は、常にこのストレスに直面していることが考えられる。また、PDDという多様な特性を示す障害により、育て方や関わり方がより複雑になり、そのことが育児ストレスをより強めることが考えられる。つまり、数あるストレスの中でも、「子育ての不安」に対してサポートすることが重要であると示唆された。父親(夫)が推測する母親のストレスは、「子育ての不安」が16名中12名で75%であり、最も多かった。これらは、母親があげたストレスと一致していた。つまり、父親(夫)も、母親が「子育ての不安」でストレスを感じていると認識していることがうかがえた。

サポート内容に関しては、母親は、父親(夫)に『母親に働きかけるサポート』だけではなく、『子どもに働きかける』といったサポートも理想として求めていることが明らかとなった。しかし、父親(夫)は『母親に働きかけるサポート』については一致していたが、『子どもに働きかけるサポート』をあげていた事例は少なく父母間で一致していなかった。健常児をもつ母親の場合では、これまで多くの研究で、育児において父親(夫)からの情緒的サポートが有用とされてきた。しかし、PDD児を

もつ母親にとっては、子育ての困難さから、母親に働きかけるサポートだけでなく、子どもの特性について夫婦で共に考え育児をすることが求められると考えられる。

また、父親(夫)は、『母親に働きかけるサポート』は行なっているが、『子どもに働きかけるサポート』が母親の理想のサポートであるとは認識していなかった。さらに父親(夫)は母親に対し、「夫婦で話し合う」というサポートを行なっていると認識していたが、母親は単に「母親の話を聞く」と認識していた。住田¹¹⁾はコミュニケーションがとれている夫婦の場合は、父親の育児参加の程度に関わらず、母親の育児の満足度は高いことを示している。小島¹²⁾も、父親が母親とよく話し子どもの特性を理解することが、母親の育児を前向きに捉えることと関連していると指摘している。しかし、今回の結果では、母親が父親に求める理想のサポート内容と父親が母親に行なっているサポート内容が一致しており、なおかつ、母親が実際に父親から受けているサポート内容と父親が母親に行なっているサポート内容が一致していた夫婦は30%であり、残りの70%の夫婦は両者間のサポート内容の不一致が生じていた。つまり、父親と母親は異なる障害認識をもち、特に父親(夫)は子どもの障害に対して否定的な感情を強くもち、障害を受容しにくいと指摘があるように¹³⁾、PDD児をもつ父親(夫)と母親は、育児において異なる意識をもっていると考えられる。

しかし、一致度が低かった要因として自由記述で得られたデータに対して一致率を算出したことに限界があったことも述べておかねばならない。自由記述で回答者が自分の状況を網羅的に想起して記述したかどうかは明確ではないため、このような不一致が生じた可能性も考えられる。また、母親が『子どもに働きかけるサポート』を望む一方、父親(夫)はそのように認識していなかったという結果に関して、質問紙での尋ね方が影響したことも考えられ

る。母親用質問紙では「父親から求めるサポート」を尋ねて、誰に対するサポートであるかが明示されていなかった。一方、父親用質問紙では「母親に対するサポート」を尋ねて、誰に対するサポートかが明示されていた。今後は質問紙における尋ね方をより工夫する必要があると考える。

本調査で、PDD児を育てる母親にとって、父親（夫）の存在は重要であるということが明らかとなった。しかし、父親（夫）と母親のサポート内容

は一致しておらず、父親（夫）の育児の参加の仕方が母親と異なることが考えられる。桑田⁵⁾はこれまでの研究は母親のみに焦点が当てられ、父親が見過ごされてきたことを指摘している。今後は、父親（夫）は育児において何をすることが重要であるのか、何をしたら話し合えていると思っているのかということを明らかにしていく必要がある。それらを明らかにし、PDD児を育てる母親の育児ストレスを低下させる要因を検討していきたい。

文 献

- 1) 文部科学省：特別支援教育に関する中央審議会答申「特別支援教育を推進するための「制度の在り方について」」。2005.
- 2) 北川憲明，七木田敦，今塩屋隼男：障害幼児を育てる母親へのソーシャルサポートの影響。特殊教育学研究，**33**(1)，35-44，1995.
- 3) 田中千鶴子：障害のある児とその家族の視点から。日本看護研究会誌，**20**(1)，39-40，1997.
- 4) 新見明夫，植村勝彦：就学前の心身障害幼児をもつ母親のストレス-健常幼児の母親との比較-。発達障害研究，**3**(3)，206-216，1981.
- 5) 桑田左絵，神尾陽子：発達障害児をもつ親の障害受容過程-文献的検討から-。児童青年精神医学とその近接領域，**45**(4)，325-343，2004.
- 6) 野邑健二，金子一史，本城秀次，吉川徹，石川美都里，松岡弥玲，辻井正次：高機能広汎性発達障害児の母親の抑うつについて。小児の精神と神経，**50**(4)，429-438，2010.
- 7) 明野聖子，澤田あずさ，工藤禎子，竹生礼子，佐藤美由紀：1歳6ヶ月児の父親の育児サポートに関する母親の認知に関連する要因。日本地域看護学会誌，**13**(1)，83-90，2010.
- 8) 森口香，岩満優美，山本憲司，金生由紀子，中村賢，井上勝夫，宮岡等：広汎性発達障害の子どもをもつ母親のソーシャルサポートの検討。ストレス科学，**23**(1)，104-114，2008.
- 9) 尾見康博：ソーシャル・サポートの提供者と受領者の間の知覚の一致に関する研究-受領者が中学生で提供者が母親の場合-。教育心理学研究，**50**，73-80，2002.
- 10) 湯沢純子，渡邊佳明，松永しのぶ：自閉症児を育てる母親の子育てに対する気持ちとソーシャルサポートとの関連。昭和女子大学生生活心理研究所紀要，**10**，119-129，2007.
- 11) 住田正樹，中田周作：父親の養育態度と母親の育児不安。九州大学大学院教育学研究紀要，**2**，19-38，1999.
- 12) 小島未生，田中真理：障害児の父親の育児行為に対する母親の認識と育児感情に関する研究。特殊教育学研究，**44**(5)，291-299，2007.
- 13) 山岡祥子，中村真理：高機能広汎性発達障害児・者をもつ親の気づきと障害認識-父と母との相違-。特殊教育学研究，**46**(2)，93-101，2008.

(平成23年11月22日受理)

Child Care Stressors of Mothers of Children with Pervasive Developmental Disorders and the Support from Fathers to Mothers

Ishin OKANO, Yuko TAKEI and Masaharu TERASAKI

(Accepted Nov. 22, 2011)

Key words : pervasive developmental disorders (PDD), child care stressors, social support

Abstract

The support which mothers having children with pervasive developmental disorders (children with PDD) need from fathers (husbands) under various child care stressors, and the support which they really received were examined. The support which fathers wanted to perform for mothers and the support which they really performed were also examined.

Forty couples having children with PDD in elementary school reported on the questionnaire. Mothers described their child care stressors and the support which they want and really received from fathers. Fathers described the support which they want to perform and really performed to mothers.

Results showed that mothers needed not only the support to themselves but also the support to a child from fathers. Fathers thought that support to the mother was necessary, but did not think that the support to a child was necessary. Only 30% of couples had the same support both received and performed. The disagreements in supports were found in many couples.

Correspondence to : Ishin OKANO

Master's Program in Clinical Psychology
Graduate School of Health and Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurasiki, 701-0193, Japan
E-Mail : w5211011@yahoo.co.jp

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.21, No.2, 2012 218–224)